

テーマ「日々、いただきなおす」

南谷 広視

来年の4月7日、私が住職をしております善敬寺において、宗祖親鸞聖人の御遠忌法要の厳修を予定しております。それに向けて、先日、本堂の修復を若干行いました。その際のことをお話いたします。

本堂の正面に安置されているご本尊の阿弥陀如来様は、少し前に傾いて立っておられます。これは、前に出て衆生を救わないではおられないという慈悲を表しております。それにしても、善敬寺の阿弥陀様はかなり前のめりでした。余程慈悲のお心が強いのですね。今回の修復の際に、仏壇屋さんがお内陣の金紙を張り替えた時、「地震などで振動が出た時に、阿弥陀様が倒れて傷が付いてはいけないので、直しておいてあげたわ」とおっしゃるのです。後から見ると、阿弥陀様が真っ直ぐに立っておられました。申し遅れましたが、私は愛知県の高校の教員もしております、その仏壇屋さんは私の教え子でもあり、彼は気安くやってくださったのですが、最近気になってしょうがないことがあります。それは、毎朝のお勤めの後にお仏飯をお供えするのですが、その際、阿弥陀様と目線が合わないのです。今まではしっかりと合っていました。光の加減、その時の私の心の加減で、その目は微笑んでいらっしやったり、怒っていらっしやったり、悲しんでおられたり、いつも違っていました。今は遠くを見ておられるのです。私を見てはくださらない。

私たちは日々、阿弥陀様から尊い願いをかけられています。いつも「それでいいのか？」とおっしゃられたり、「そのまま尊いよ」とおっしゃられたり…。そして、最後は仏様のお浄土に還らせていただけるんです。目的地ははっきりしています。でも大切なのは、今の自分がどこにおるのかということをはっきりとすることでしょう。今の立ち位置と言いますか、何を依り処として、何を大切に、何を信じているのか。日々の暮らしの中で、そのことを確かめる時間が、お内仏での阿弥陀様との会話なんですね。掌を合わせながら、お勤めをしながら、阿弥陀様と目を合わせながら。

来年、お寺の御遠忌法要をお勤めするにあたり、先人から脈々と受け継がれてきたみ教えを戴き直す機会にしたいと念じております。